

ページ	該当箇所	誤	正
94	平成28年度第1回 [問1 (2) (i)] [解説] 下から4行目	シングルモード	シングルモード
96	平成28年度第1回 [問1 (2) (ii)] < (カ) の解答群 >③の4行目	IISケーブル	HSケーブル
97	平成28年度第1回 [問1 (3) (i)] [設問] Bの2行目	増鳴器	増幅器
97	平成28年度第1回 [問1 (3) (i)] [設問] Bの3行目	増鳴器	増幅器
97	平成28年度第1回 [問1 (3) (i)] [解説] 2行目	半体光増幅器	半導体光増幅器
98	平成28年度第1回 [問1 (3) (ii)] < (ク) の解答群 >[解説]①の2行目	……低雑音増幅を目的とする場合は $1.48\mu\text{m}$ 帯、高出力動作を目的とする場合は $0.98\mu\text{m}$ 帯のLD（半導体レーザ）が用いられる。	……低雑音増幅を目的とする場合は $0.98\mu\text{m}$ 帯、高出力動作を目的とする場合は $1.48\mu\text{m}$ 帯のLD（半導体レーザ）が用いられる。
115	平成28年度第1回 [問4 (2) (ii)] [解説] 7行目	現象から原因に向かってトップダウンの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法は、FTA (Fault Tree Analysis) である。FMEA (Failure Mode and Effects Analysis) は、逆にボトムアップの手法で、	システムや装置に起り得る故障モードを予測し、ボトムアップの手法により故障波及状況や影響度などを解析する手法として、FMEAがある。現象から原因に向かってトップダウンの手法により製品の故障とそれにより発生した事故の原因を解析する手法は、FTA (Fault Tree Analysis) である。
127	平成28年度第2回 [問1 (2) (ii)] [設問] 選択肢C 2行目	SZ撓り	SZ撓り
129	平成28年度第2回 [問1 (3) (ii)] (ク) の解答群 ①	生産段階	生産段階
139	平成28年度第2回 [問3 (2) (ii)] [設問] B 1行目	集合装霞	集合装置
154	平成28年度第2回 [問5 (5)] (ク) の解答群 ① 3行目	設備保存者	設備保有者
171	平成29年度第1回 [問3 (1)] [設問] 下から3行目	のこのダイナミックレンジを	このダイナミックレンジを
183	平成29年度第1回 [問4 (3)] [解説] 下から1行目	[%/時間]	[%]
198	平成29年度第2回 [問1 (2) (iii)] [解説] ④ 2行目	ヤング率（縦弾性係数）が銅線と同程度の	ヤング率（縦弾性係数）が銅線の $1/4$ 程度の
202	平成29年度第2回 [問2 (3) (i)] [解説] の1行目	【解説】 電線類の地中化などについての設問である。	【解説】 無中継光海底ケーブルシステム及び中継光海底ケーブルシステムについての設問である。
206	平成29年度第2回 [問2 (3) (i)] [解説] の④の記述	【解説】 ③の記述は、誤りである。：中継光海底ケーブルシステムの光ファイバペア数は、光海底中継器回路数に依る。その回路数は光デバイスや電源回路の小型化及びケーブルの改良により増加しており、現在は、ファイバペア数が8のシステムが提供されている。 ④の記述は、誤りである。：深い海底を通って長距離伝送することを想定している中継光海底ケーブルシステムでは、最大適用水深は8,000[m]である。一方、無中継光海底ケーブルは、比較的近距離にある離島の通信網整備を目的として、適用水深を最大3,000m程度とし、できるだけ多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できるようにしている（水深が浅いほど、ケーブルの耐水圧を低くできるため、より多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できる）。	【解説】 ③の記述は、誤りである。：中継光海底ケーブルシステムの光ファイバペア数は、光海底中継器回路数に依る。その回路数は光デバイスや電源回路の小型化及びケーブルの改良により増加しており、現在は、ファイバペア数が8のシステムが提供されている。 ④の記述は、誤りである。：深い海底を通って長距離伝送することを想定している中継光海底ケーブルシステムでは、最大適用水深は8,000[m]である。一方、無中継光海底ケーブルは、比較的近距離にある離島の通信網整備を目的として、適用水深を最大3,000m程度とし、できるだけ多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できるようにしている（水深が浅いほど、ケーブルの耐水圧を低くできるため、より多くの光ファイバを同一ケーブル内に収容できる）。

ページ	該当箇所	誤	正
212	平成29年度第2回[問3(2)(iii)] [解説]④の記述	④の記述が正しい。	④の記述は、誤りである。:可視光源としては、一般に、出力光を直視しても目の嫌悪反応によって、目が保護される <u>クラス2</u> のレーザ安全規格を満たしている赤色LDが用いられる。クラス4は、人体に危険で、火災を発生させる危険のある高出力のレーザの規格である。
234	平成30年度第1回[問1(3)(i)] 解説	【解説】 GE-PONに用いられる伝送技術についての設問である。	【解説】 線路設備に用いられるプラスチック材料の特性と用途、光クロージャの構造などについての設問である。
236	平成30年度第1回[問1(3)(ii)] [解答]	【解答】 (ク) :②が正しい。	【解答】 (ク) :④が正しい。
236	平成30年度第1回[問1(3)(ii)] 解説	【解説】 GE-PONに用いられる伝送技術についての設問である。	【解説】 光クロージャの構造などについての設問である。
240	平成30年度第1回[問2(2)(i)] 解説	②の記述は、誤りである。:マンホールの首部は、通常円形であり長さは0.5[m]であるが、既設埋設物との関係でマンホールの土被りが深くなり首部の長さが1.0[m]を超える場合は、現場打ちコンクリートによる角型の構造とする。★(平成28年度1回通信土木)	②の記述は、誤りである。:マンホールの首部は、通常円形であり長さは0.5[m]であるが、既設埋設物との関係でマンホールの土被りが深くなり首部の長さが <u>1.5[m]</u> を超える場合は、現場打ちコンクリートによる角型の構造とする。 ★(平成28年度1回通信土木)
248	平成30年度第1回[問3(2)(i)] [解説]	【解説】 通信線(メタリックケーブル)の非ガス保守などについての設問である	【解説】 通信線(メタリックケーブル)が受ける誘導についての設問である
261	平成30年度第1回[問4(3)(ii)] <(ク)の解答群>	① 2.01×10^{-3} ② 4.00×10^{-3} ③ 3.34×10^{-1} ④ 4.96×10^{-1} ⑤ 5.02×10^{-1} ⑥ 6.66×10^{-1}	① 2.01×10^{-3} ② 4.00×10^{-3} ③ 3.34×10^{-1} ④ 4.96×10^{-1} ⑤ 5.02×10^{-1} ⑥ 6.66×10^{-1}